

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業  
実社会対応プログラム（研究テーマ公募型研究テーマ）  
評価用研究成果報告書

課題		制度、文化、公共心と経済社会の相互連関			
研究テーマ名		効果的・持続的な災害伝承を目的にした拠点構築手法のモデル化と実践的研究			
研究代表者	所属機関	東北大学			
	部局	災害科学国際研究所			
	役職	准教授	氏名	佐藤 翔輔	
委託研究費		単位：千円			
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
2,760	4,050	3,250	1,200		

<p><b>1. 研究の概要</b></p> <p>研究目的、研究内容、成果や波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。</p> <p>災害に見舞われた被災地では、経験・教訓を継承するために展示、ガイド・語り部等の災害伝承活動が行われるが、それらの効果は未検証であり、利用者が経年的に減少するという課題がある。本研究は人文・社会科学の叡智を結集し、これら諸問題を改善する災害伝承拠点構築モデルの確立を目的とする。効果的で持続的な災害伝承を行うための理論モデルをマーケティングモデル、コンテンツ編集モデル、意識変容モデルとして設計し、東日本大震災の被災地である宮城県内での実践を行い、その効果検証と検証に基づくモデルの改善を継続的に行うアクションリサーチのアプローチをとった。研究成果は主に以下のようにまとめられる。</p> <p>1. マーケティングモデル</p> <p>①観光者開発の概念を用いた自然災害型ダークツーリズムのモデル設計、②災害伝承施設のリーダーの潜在ニーズの解明、③震災遺構の保存・解体の要因の解明、④震災伝承の施設やプログラムに求められる要件の解明、⑤屋外拠点の来訪者数の自動計測システムの設計・実装、⑥震災伝承事業の関係者の連携体「3.11 メモリアルネットワーク」の立ち上げ</p> <p>2. コンテンツ編集モデル</p> <p>①津波避難行動実態記録手法の開発、②災害モニュメント建立に関わる意思決定過程の解明、③震災遺物等の劣化防止・保存の業務仕様の設計・実践、④災害デジタルアーカイブの活用した防災教育教材の作成実践、⑤震災遺構等の3Dモデル保存手法の開発・実践</p> <p>3. 意識変容モデル</p> <p>①津波伝承がもたらす減災効果の定量的評価、②50年以上経過した地震災害の記憶の現状の把握、③語り部がもたらす意識変容への影響評価実験、④フィールド型の震災伝承ICTデバイスについて利用者の評価実験、⑤東日本大震災の被災地で発生した地域の「次の津波」での避難行動実態の把握、⑤東日本大震災の被災地における子どもの「震災の記憶」実態の把握</p> <p>実務者と研究者が共同して実施したことで、以上の知見導出や実装を円滑に実施することができただけでなく、介入を行った施設・プログラムにおいては、効果的な学習および利用者の増大・継続獲得を実現することができた。</p>
---